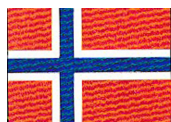


地球のかおり

欧州の北の果て、ノルウェー・ノールカップから、スカンディナビア半島を南下した。昼が長い北欧の夏だが、このところは曇天続き。広がる景色は壮大なのに光が乏しい。一瞬でいいから夕日を見たい。海に見える小山に登って、その瞬間を待つ。風を感じた。雲が動き始め、すき間から光が。変化が早い。明るさが増し、フィヨルドの海は金色に染まっていた。こんな美しい瞬間が、この地球上にはある。

(夢絵作家 久樂^{くらくら}迎古^{むかこ})

金色の海



画像は、写真集「地球紀行」から